秋　田　公　立　美　術　大　学　大　学　院

複合芸術研究科

Graduate School of Transdisciplinary Arts, Akita University of Art
Master's Program / Doctoral Program in 2023

相互に越境する社会と創造領域の変容可能性を「複合芸術」の視座から研究する美術系大学院

2023年度（令和5年度）修士課程 / 博士課程

We are internationally establishing reliability as one of outstanding graduate schools of art in researching a wide range of contemporary creative fields, which is expanding its area and role under the transformation of relationship between society and culture, through the aspect and practice of "Transdisciplinary Arts".

複合と越境の実践を通して、新しい創造領域を拓く

大学院複合芸術研究科は、社会と文化の関係性の変容とともに領域と役割の拡大が求められている現代の創造系諸分野を「複合芸術（Transdisciplinary Arts）」の視座と実践を通して研究する美術系大学院です。

本研究科の考える「複合芸術」とは、単に複数の異なる表現技法や素材の合体の成果を意味するものではありません。自らの専門の外部に越境して異なる領域の実践の方法や思想を学ぶこと、そこで得られた知識と経験を自らの活動に組み込むこと、そして既存の事物や現象の構成要素の関係性を点検してそれを未来へ向けて再配置することの全体を、本研究科では表現領域と社会の新たな可能性を拓く「複合芸術」の活動であると考えます。

修士課程、博士課程ともに、本研究科では 学生それぞれの専門性と研究テーマに立脚しつつ、複合芸術研究を自身の技術や資質を他の専門領域との交わりを通して拡張させる「内的運動」と、外部の社会に介入 しそこにある諸要素の複合を積極的に推し進める「外的運動」の並走によって実現 させていきます。前者では、素材・技術・手法の尽きることのない複合の試みを通して新たな表現者の力が提案され、後者からは、潜在的な社会的課題が発見されながら新しい役割と社会のかたちが提示されます。専門分化した芸術各領域の「型（かた）」を認めつつ、それを積極的にはぐらかし解体する自由で柔軟な想像力と、新たな表現領域や社会的価値の創造の上に、複合芸術は成立すると考えます。

本研究科では、専門領域の異なる複数の教員と学生が主体的に交流して学生一人一人の研究の形を育むチームティーチングの指導形式（本研究科ではこれを「セッション」と呼びます）を採用しています。カリキュラムは、芸術の要素複合を異なる専門領域の立場から紹介する「講義」、多様な創造領域の理念や手法の複合可能性を経験・検討する「演習」、学外の地域や組織と連携・協働して社会実践をおこなう「実習」、そして学生各自の研究テーマで取り組む「特別研究」により構成されます。学生は「セッション」による複合芸術の学びを通して、個人研究を 自らの内外に広く深く展開・実現させていきます。

修士課程および博士課程のカリキュラム

本研究科修士課程のカリキュラムは、現代の創造領域の実践を支える要素や条件の「複合性」の多様なあり方を理解し深く考察することを目的として、様々な領域の事例と理論を学ぶ「講義」、複合の視点から研究の技法を経験する「演習」、それらの学びの成果を踏まえて学外の社会と連携協働する「実習」を通して、学生各自が自身の研究を 深く掘り下げて実践させることのできる構成と内容となっています。なお、それぞれの指導は「複数形の学び」「異なる知の交流」を重視したチームティーチング（「セッション」）の形式で進められます。

複合芸術科目は、修士１年次の前期には、複合芸術への理解を様々な既存分野の視座から深めることを目的とした「複合芸術論」、そして学生一人一人の異なる研究テーマを交差させつつ他学生と協働してプロジェクトの立案と実践に取り組む「複合芸術演習」を配置しています。後期には、創造領域の先端的な取り組みを参照しつつテキストを中心に複合芸術の可能性を探る「複合芸術応用論」、および行政や企業などの学外組織をカウンターパートとして協働プロジェクトを企画実践する「複合芸術実習」を配置しています。なお、これらの科目は、学生個々人が取り組む修士研究と深く連動・連携するものとしてプログラムされています。

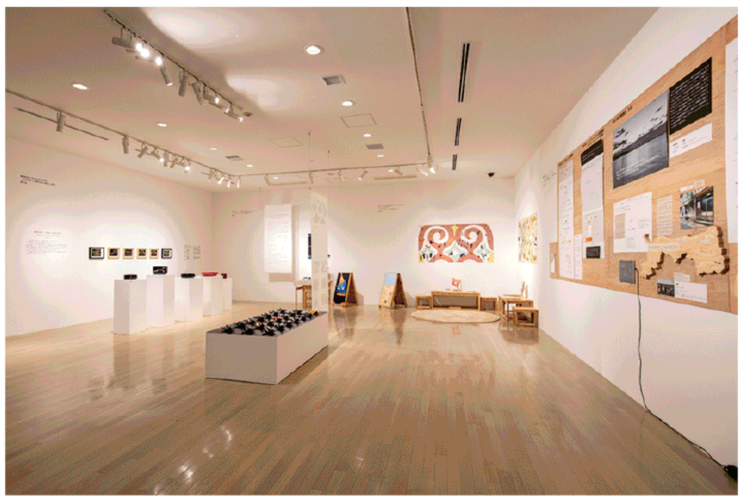
修士課程1年	修士課程2年	博士課程1年	博士課程2年	博士課程3年
○複合芸術演習	◎学位審査	○複合芸術研究法	○複合芸術理論研究 II	◎学位予備審査
○複合芸術実習 A,B		○複合芸術表現研究 I	○複合芸術表現研究 II	◎学位本審査
○複合芸術論		○複合芸術理論研究 I		
○複合芸術応用論 A,B,C				
○特別研究 I, II ＊「セッション」による授業と特別研究の接続		○複合芸術特別研究 I, II, III ＊「セッション」による授業と特別研究の接続		

複合芸術研究科での学びと実践例

- ●作品制作――技法、領域、メディアを横断する新たな表現手法の開発
- ●芸術理論――美術批評、哲学、人類学、博物館学などの学びを通した創造領域の拡張
- ●アートマネジメント――企画立案、広報、運営管理などを包括したプロジェクトの実践
- ●アーバンスタディーズ――地域研究とアートプロジェクトを接続する活動の開発と実践
- ●情報科学――情報学、情報工学を背景とした芸術表現技術の研究と開発
- ●映像――映像や映画の制作、アーカイビング、情報発信を通した映像領域の拡張
- ●ソーシャルデザイン――社会課題の解決を目指して多様な領域を横断・複合するデザイン実践

ACTIVITY

#ワークショップ #紙漉き



#展覧会 #修了研究展

#展覧会 #博士課程展

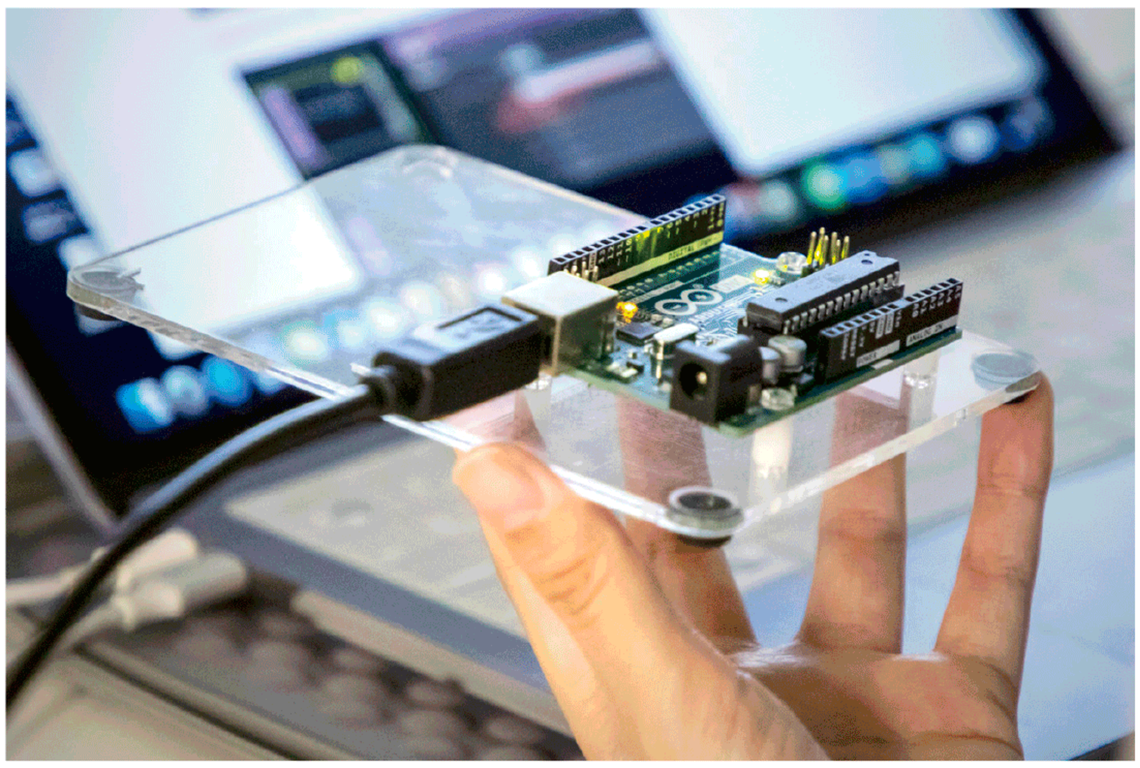
#フィールドワーク #ネコバリ岩

#授業 #複合芸術応用論 #ジュリア・カセム

#フィルドワーク #農園晴晴

#展覧会 #複合芸術実習成果展

#展示 #複合芸術演習成果展 #スラグ



#授業 #ジェネレーティブアート

#部活 #粘菌模触実験

#授業 #セッション #ディスカッション

#フィールドワーク #カラミ山

#授業 #プロトタイピングメソッド

在学生の声

STUDENT INTERVIEW

意識下の身体に着目し、作品を制作してきました。ゲシュタルト心理学には「図と地」という概念があり、絵画や写真で例えると、フレームの中で〈形〉と認識されるものが「図」で、それ以外の〈背景〉と呼ばれるものが「地」になります。

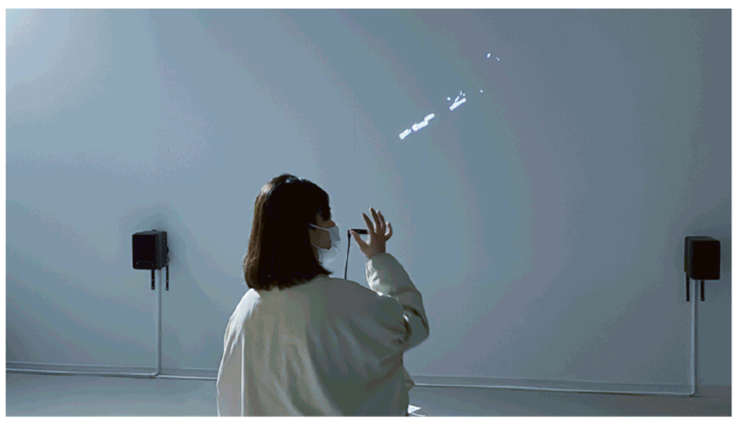
身体に対する意識に「図と地」を適用した場合、行為は意識（図）的に目的を持って行われ、それに伴う動作は無意識（地）的に手段として行われていると言えるかと思います。この仮定の下、私は、機械を通してヒトの動作を抽出することで、意識下の身体が発する情報を見ようと試みてきました。

しかし、これまでの活動を振り返り、整理していた時に、まだまだ不十分な部分が見えてきて、やっていることに納得したいと強く思い、大学院への進学を選びました。

学部の期間を含めると、この校舎に通い始めて5年目なのですが、毎日通学する道を見飽きたことがありません。足元に雄物川を見ながら、徒歩や自転車で移動するのですが、この辺は補修工事されていない道路が多く、アスファルトの割れ目から力強い新緑が見られる時期があります。

秋田は雪国の印象が強いかもしれないけれど、冬を越えた後、眠りから覚めた植物や虫などの生物が路上に突如姿を見せ、著しく成長を遂げる様子は、一気に時間が進むような感覚を引き起こします。それから、秋田は土壌の匂いが濃いような気がします。天気や季節に特有の匂いがあり、特に夏の匂いは強く目の奥を刺激します。

大学院に来て気が付いたことは、自分から動いて探すと、備品や環境など、まだまだ活用できるものが沢山あるということです。制作場所もそうです。院生には通常、院生室やG1Sという開放的なスペースが制作・研究場所として貸与されていますが、その他にも、会議室を一時的な実験室として活用することもできます。



また、院生や助手、教員の専門が異なるために、それぞれが持っている、これまで出会う機会がなかった書籍や機材などにも出会うことができます。みんなが個人スペースに持ち込んでくる様々なものを目にするのも楽しいです。来年はまた、今年とは違うものを見たり触れたりできるんだろうなと思っています。

佐藤若奈
Wakana Sato
修士課程１年

インターセクショナル・フェミニズムの視点からアートマネジメントについて研究しています。具体的には、実践とともにアートマネジメントに必要なインターセクショナリティとは何かということを言語化しようとしています。学部の時は美大ではない一般の文系大学で展覧会の企画やアートプロジェクトの運営に関わるなどの実践を行なっていましたが、より美術について深く学びたいと思い大学院への進学を決めました。一方で、学部時代に周りに美術以外に文化人類学や社会学などを学ぶ、興味や関心が異なる学生・教員がいる中で学べたことにも大きな意義を感じていました。だから、美術系以外の学問の先生方もいる複合芸術研究科はまさにぴったりの場所でした。

複合芸術研究科では、現代美術、デザイン、工芸など異なる専門性を持つ学生同士で演習や実習などの実践的な活動を行います。最初は、それぞれが専門とする分野の言語がお互いに通じず難しさも感じていましたが、今は、それもまだ価値の定まらない複合芸術の面白さなのかもしれないと思っています。実習の中では、実験的なプロジェクトに取り組むことができるなど活動の自由度が高いのも特徴のひとつだと思います。大学内部の様々な問題点について学生だけでなく先生方と対話をしながら少しずつその段差を取り除こうとできる雰囲気も良いと思います。私たちの身の回りにある理不尽な抑圧に目を背けず、周りの仲間と共に考えながら話し合うことは、研究で取り組んでいる内容にも良い影響を与えていると感じています。

また、NPO法人アーツセンターあきたや秋田市文化創造館など、大学外にも活動をサポートしてくれる体制が整っているということも魅力のひとつです。特に、アーツセンターに勤務するアートマネージャーの方たちがいてくれることで、学外に学びの環境があることはとても有難いです。アートマネジメントについて研究している私にとっては、既に秋田でアートマネジメントを実践している先輩方の姿から学ぶことがたくさんあります。ジェンダー化されたアートマネジメントの構造や、自分自身も含む個々のアートマネージャーたちが抱える悩みを共有し連帯することで、労働環境だけでなく、これまでにない新しい作品や表現が生み出されていくのではないかと考えています。修了後も、秋田での実践から生まれた問いに向き合いながら活動していきたいです。

櫻井莉菜
Rina Sakurai
修士課程２年

これからの時代は、神話的かつ垂直的な縦軸の動きが重要になるのではないでしょうか。ある場所に根を深く降ろし、樹木を天に向けて伸ばしていくことが大事なのではないでしょうか。このような意味で、民俗の最深部にこそ、人類の未来があるのだ、と確信しています。

私はアートや藝術の専門教育を受けたことはありません。何ならアートの世界と全く縁のないと思われる国際的な法律事務所を運営しながら、グローバル資本主義の先端に身を置いています。水平的かつ一律的な世界の拡大に加担しながらも、小さな実践や言葉にならない抵抗を行っていきたいと思っています。そのためには、法律的な思考やアジアにおける現場での知見を複合的に駆使しながら、ある場所の神話や民俗に関する知識を深め、オルタナティブな世界の構築に少しでも寄与したいと思っています。

さて、ここまでアートや藝術と全く関係ない議論をしていると思われたでしょうか。アートには、前提とする既存制度の枠組みを〈外〉に拓く機能があります。近代化、均質化された「社会」、「資本」や「生活」ではなく、その外にある本来的な〈社会〉、〈資本〉や〈生活〉を問い直すことに価値が生じる時代です。アートは、きっと物事を思考するための入り口として設置されたものではなく、社会、資本や生活等に入り込んで、それらを経由しながら、結果として、表出されたモノや概念のようなものではないでしょうか。

その表出されたアートなるモノから、出口を思考することが大事なのだと思います。そのときに、きっと学問の力が必要になるのでしょう。契約文書と同様に、テキストは書けば書くほど空疎化するように思います。アーティストは、言葉にできないものを表現しているので、文字はある種の暴力ともいえるかもしれません。しかしながら、他者との関係において、言葉や記述を尽くす以外に相互理解を深めることはできないので、苦しくとも記述し続けるしかないのです。この苦しみと向き合いながら、小さな相互理解の喜びを感じるために、〈大学〉はあるのではないかと思います。

私がここにいるのは、既存の枠組みから距離を置き、〈外〉部を志向する一風変わった先生方や仲間達と対話、議論するためです。また、〈外〉から混乱に導いてもらい、その混沌の中で新しい「知」を獲得したい、というのが純粋な動機です。〈外〉に思考を拓くためには、「複合」という名を持つ混沌を志向する〈大学〉に身を置く以外に、道はないのです。

藪本雄登
Yuto Yabumoto
博士課程１年

学ぶ時間、創る空間

FACILITY

東北・秋田を拠点として実践する多様な研究活動を支える、制作と情報発信の環境。

大学院棟

G1S（大型多用途スタジオ）

作品展示、研究発表、トークイベント、ワークショップなどの用途に対応する大型スタジオです。多様なメディア表現の目的に対応する様々な映像音響機材を有しています。G1Sは24時間アクセス可能です。

G1S（制作スペース）

多用途スタジオに隣接して、大型立体作品に対応する制作スペースも備えています。併設する木工・金工の工作室を活用して、常時複数の院生により作品制作がおこなわれています。

院生室

大学院生には個人のスペースが貸与されます。またプリンタ等の出力機器と授業やミーティングに対応する共有スペースを用意しています。図書庫やラウンジを併設し、24時間出入り可能のため、いつでも研究に打ち込めます。

関連施設

大学附属図書館

アート・工芸・デザイン関係の幅広い文献、雑誌や新聞、映像資料に各種データベース等、様々な蔵書が充実しています。美術関連のみならず、幅広い個人の研究志向に合わせ、新たな分野の書籍の収集や蔵書の購入もサポートしています。

アラヤイチノ・新屋NINO

新屋地域の方々よりお借りしている「空き家」を活用した多用途スペースです。作品発表や自主企画のライブイベント、講演、アーティストインレジデンスでのゲスト宿泊など、キャンパスの近隣地域で様々な実践が可能です。

BIYONG POINT（ビヨンポイント）

CNA秋田ケーブルテレビと大学が運営するホワイトキューブギャラリーです。実験的な展覧会やプロジェクトの企画を進めるとともに、多くの人々に、よりアートに親しんでいただくエデュケーション・プログラムも実践しています。

関連施設

美大サテライトセンター

JR秋田駅西口のフォンテAKITA6階に位置し、教員や学生の研究・制作の成果発表の場であり、広報の機能も担っています。ギャラリーコーナーでは教員や学生によるさまざまな分野の取り組みを展覧会形式で発表し、デッサンルームでは大学の公開講座やデッサンスクール、中高生対象の素描Labなども開催しています。

関連センター

国際交流センター

国際協定校を中心とする海外の研究教育機関や文化組織などとの人物交流や、教員・学生による海外でのプロジェクト実践、作品発表、研究活動を支援します。

アーツセンターあきた

秋田公立美術大学が設立したNPO法人。多彩な教授陣が展開する数々のプロジェクトや研究成果といった美大のリソースと地域を繋げ、アートやデザインを用いて新たなプロジェクトに取り組んでいます。2021年3月より秋田市文化創造館の管理運営も行なっています。

複合芸術論および複合芸術演習担当教員

FACULTY

岸　健太（研究科長）
Kenta Kishi（DEAN）
アーバンスタディーズ
地域資源マネジメント
東南アジア地域研究

飯倉宏治
Koji Iigura
情報学フロンティア
計算基盤
地理学

今中隆介
Ryusuke Imanaka
インテリアデザイン
ファニチャーデザイン
プロダクトデザイン

岩井成昭
Shigeaki Iwai
インスタレーション
映像
多文化芸術調査

藤　浩志
Hiroshi Fuji
現代美術
アートプロジェクト
アートマネジメント

曽根博美
Hiromi Sone
アートプロジェクト
コミュニティとアート
アートとレジリエンス

石倉敏明
Toshiaki Ishikura
芸術人類学
神話学

石山友美
Tomomi Ishiyama
映画製作

唐澤太輔
Taisuke Karasawa
哲学
文化人類学

萩原健一
Kenichi Hagihara
映像
メディアアート

福住　廉
Ren Fukuzumi
美術批評

服部浩之
Hiroyuki Hattori
非常勤講師
東京藝術大学大学院
映像研究科メディア映像専攻准教授

※より幅広い研究領域をサポートするため、上記教員以外の本学教員による指導も可能としています。秋田公立美術大学教員についてはWebサイト内の学部各専攻・センターのページを参照してください。

■入試情報

修士課程

定員：10名（一般推薦および一般選抜（第1期募集、第2期募集）の合計）
選抜方法：書類審査・グループディスカッション（もしくは記述試験）・面接

○ 一般推薦
出願期間：2022年7月25日（月）～8月2日（火）
試験日程：2022年9月3日（土）
合格発表：2022年9月14日（水）

○ 一般選抜
・ 第1期募集
出願期間：2022年10月6日（木）～10月13日（木）
試験日程：2022年11月5日（土）
合格発表：2022年11月14日（月）
・ 第2期募集
出願期間：2023年2月1日（水）～2月6日（月）
試験日程：2023年3月4日（土）
合格発表：2023年3月10日（金）

博士課程

定員：2名
選抜方法：書類審査・面接（口頭試問含む）

○ 一般選抜
出願期間：2022年10月6日（木）～10月13日（木）
試験日程：2022年11月5日（土）
合格発表：2022年11月14日（月）

※注意
新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、上記実施方法とは異なる方法で選抜を行う場合がありますので、最新の情報は学生募集要項または大学院Webサイトをご確認ください。

■アドミッションポリシー（入学者受入方針）

【修士課程】

① 新しい芸術を探求する意欲のある人
② グローバルな視野と地域への視点を併せ持つ人
③ 他者と協働しながら主体的に制作や研究に取り組める人

【博士課程】

① 複合の視点から自立した研究に取り組み、表現手法の拡張や現代芸術の理論化を探求していく人
② モノ・コトの成り立ちを解析し、領域を横断する高い観点から、自らの創造性や思考の転換に基づく成果によって、芸術領域及び社会に新たな価値を提示する人
③ 現代芸術の研究を通じて、複合の視点からの理論化に取り組み、「複合芸術」の体系化を担っていく意欲のある人

■学生募集要項の請求方法

1. 大学院Webサイトから直接ダウンロード
下記リンク先から出願書類等をダウンロードし、各自印刷してください。
https://www.akibi.ac.jp/daigakuin/examination/

2. 大学へ直接請求する場合
返信用封筒（角形2号）に自分の郵便番号・住所、氏名を明記の上、下記の郵送料分の切手を添付し、請求表示（大学院学生募集要項請求「修士課程」「博士課程」の別を記載）を朱書きした大学宛の封筒に入れ、下記請求先までお送りください。
郵送料　出願書類のみ 140円
請求先　〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学事務局 学生課宛

3. 窓口で直接入手する場合
本学キャンパス内の事務局学生課で配付していますので、直接お越しください。
受付時間　8:30 ～ 17:15　月曜日～金曜日（土日祝日・年末年始は除く）

■入試に関するお問い合わせ

〒010-1632　秋田市新屋大川町12-3　秋田公立美術大学　事務局学生課
Tel：018-888-8105　Mail：kyomu@akibi.ac.jp
詳細は大学院HPをご覧ください。
https://www.akibi.ac.jp/daigakuin/

INFORMATION

進学相談会＠オープンキャンパス

日時　第1回：2022年7月23日（土）/ 第2回：2022年10月8日（土）
場所　大学院棟1階（G1S）/ オンライン

オープンキャンパスにて大学院による作品展示・研究発表、および入試やカリキュラム等の質問に対応する進学相談コーナーを設けております。校舎や設備の見学も可能です。進学相談会はオンラインでも開催予定です。詳しくは秋田公立美術大学大学院ウェブサイトをご覧ください。みなさまのご来場をお待ちしております。

複合芸術研究科 第5期生修了研究展

2023年2月中旬に「秋田公立美術大学卒業・修了展2022」を開催予定です。多様な修士研究をはじめ、ゲストを招いたトークイベントや学生企画によるイベント・パフォーマンスなどを予定しています。大学院の公式サイトで公開していきますので、詳しい情報はそちらをご参照ください。

上記のイベント開催は新型コロナウィルス感染拡大の影響により、日程を変更する可能性があります。本学Webサイトにて最新情報をご確認ください。

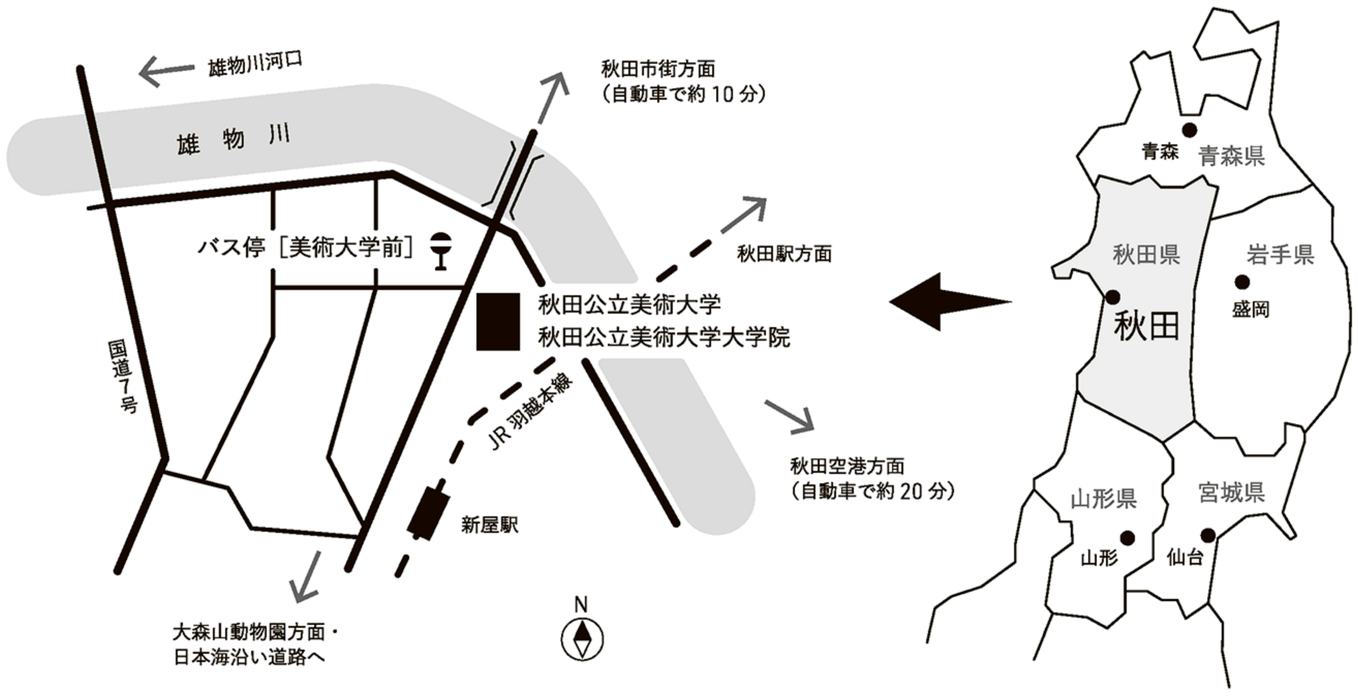
秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

Facebook: @grad.akibi
Twitter: @AkibiGrad
Instagram: @akibigrad

アクセス ACCESS

JR「秋田駅」から羽越本線「新屋駅」下車　新屋駅から徒歩15分
JR「秋田駅」から秋田中央交通バス 新屋線「美術大学前」下車　徒歩1分

秋田新幹線	東京駅	秋田駅	3時間49分
飛行機	羽田空港	秋田空港	65分
	伊丹空港	秋田空港	80分
	中部国際空港	秋田空港	85分
	新千歳空港	秋田空港	55分



秋田公立美術大学大学院　複合芸術研究科
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3
Tel　018-888-8105
Web　http://www.akibi.ac.jp/daigakuin/